「寝屋川市サクラ☆プロジェクト」を事例としたライトアップによるイベント運営の課題と住民参加の検証[1]

Study on the Issues of Event Management and Citizen Participation by Illumination Event on the Neyagawa Sakura Project during the Cherry Blossom Viewing Period

岩田　三千子[2]　　摂南大学理工学部住環境デザイン学科
三浦　和典　　摂南大学理工学部住環境デザイン学科
佐久間　響　　摂南大学理工学部住環境デザイン学科
石田　楓　　摂南大学理工学部住環境デザイン学科
川本　竜太　　摂南大学理工学部住環境デザイン学科
大庭　沙裕美　　摂南大学理工学部住環境デザイン学科

IWATA, Michico　Department of Living and Environmental Design, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University
MIURA, Kazunori　Department of Living and Environmental Design, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University
SAKUMA, Hibiki　Department of Living and Environmental Design, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University
ISHIDA, Kaede　Department of Living and Environmental Design, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University
KAWAMOTO, Ryota　Department of Living and Environmental Design, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University
OBA, Sayumi　Department of Living and Environmental Design, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University

Abstract

Displays of lighting and illumination can be found in many public places these days. However, it is very rare to find an assessment of their value for the general public. In this research paper, the authors have sought to address this need by focusing on the Neyagawa Sakura Project during the cherry blossom viewing period. The authors have used questionnaires to gather information such as attendee/participant age group, kinds of transportation used to access the event, as well as personal opinions of the general public relating to this event. In addition to these efforts, the authors

[1]【原稿受付】2018 年 8 月 9 日，【掲載決定】2018 年 10 月 29 日

[2]【主著者連絡先】岩田三千子　　摂南大学　　e-mail: michico@led.setsunan.ac.jp
〒572-8508　大阪府寝屋川市池田中町 17-8，摂南大学理工学部

have studied aspects of town planning which are involved in holding such events, and in this paper, suggest ways in which they might be improved in the future.

キーワード: ライトアップ，アンケート，花見，イベント，まちづくり
Keyword: lighting up, questionnaire, cherry viewing, event, town management

1. はじめに

地方都市において，まちの活性化のために，これまでは市民主体によるまちづくり活動が期待されてきた．しかし，野村[1]は，地域コミュニティーへの移住者や若い世代の参加状況が変化して，人と地域のつながりが薄いことを指摘するとともに，それを取り戻すためのイベント運営の重要性を述べている．島ら[2]は，まちづくりにおけるイベント運営の有効性について，大阪市の広域型イベントを事例として検討している．また，久[3]，田中[4]，薬袋ら[5]は，地方都市の活性化にイベントが寄与する実態や，まちづくり活動の組織体制や支援体制のあり方について言及している．さらに，家本ら[6]は，街の活性化の具体的な手段としてのイベント（活動）の成立要件について検討している．これらの研究成果からは，地域活性化に「イベント」運営が一役買うことがわかる．

寝屋川市では2016年度より，まちの魅力の向上，人の流れ作り，地域産業の活性化などを目的に，市内，京阪沿線，JR学研都市線沿線の住民，および，外国人旅行者などに対して，「寝屋川市サクラ☆プロジェクト」を発足して地域の活性化を図った．寝屋川市内には「友呂岐緑地」や「打上川治水緑地」などの桜の名所があり，この「寝屋川市サクラ☆プロジェクト」によって「桜といえば，ねやがわ」というイメージが定着し，市の知名度の向上やイメージアップすることを狙った．プロジェクトでは，2017年と2018年の3月末～4月初旬にかけて，打上川治水緑地の桜並木のライトアップ（図1参照），桜をイメージしたスイーツなどを企画した．加えて2018年には，竹細工ランタンの貸し出しやカフェの運営方法の変更などを新たに企画し，さらなるプロジェクトの向上を目指した．

ライトアップの取り組みには，建物を対象とするものなど，各地で様々な催しがあるものの，その効果について検討された例はない．そこで本研究では，「寝屋川市サクラ☆プロジェクト」を対象として，打上川治水緑地のライトアップの期間に参加者に対してアンケート調査と桜のライトアップコンテスト投票を行い，住民のイベント参加状況を把握する．さらに，今後，プロジェクトを進展させるために取り組むべき内容，および，住民のまちづくり参加を図る上でのライトアップイベントの効果を検証することを目的とする．

図1　寝屋川市打上川治水緑地における桜のライトアップ風景（2018年3月30日撮影）

2. 調査概要

2-1　調査期間および来訪者数

桜のライトアップ期間は，2017 年 3 月 25 日～4 月 6 日（計 13 日），2018 年 3 月 30 日～4 月 8 日（計 10 日）であった．

来訪者総数は，寝屋川市の調査によると，表 1 に示すように 2017 年が 35,000 人，2018 年が 59,300 人であった．両年の開花時期は大きく異なり，開花時期に合わせてのライトアップの準備はとても困難を極めた．2017 年は 4 月 5 日（水）頃に満開を迎えたために来訪者が最も多く，2018 年は 3 月 30 日（金）初日には既に桜が満開であり，来訪者が最も多かったのは 2 日目の 3 月 31 日(土)であった．

表 1　来訪者数と天候・桜の開花の様子

(a) 2017 年

日程	人数	備考
3/25(土)	3,600	晴
3/26(日)	300	雨
3/27(月)	700	晴
3/28(火)	700	晴
3/29(水)	700	晴
3/30(木)	1,300	晴
3/31(金)	100	雨
4/1(土)	1,800	雨
4/2(日)	1,800	晴
4/3(月)	2,500	晴
4/4(火)	5,500	晴
4/5(水)	9,000	晴
4/6(木)	7,000	晴
合計	35,000	

(b) 2018 年

日程	人数	備考
3/30(金)	10,000	晴
3/31(土)	18,000	晴
4/1(日)	14,000	晴
4/2(月)	6,000	晴
4/3(火)	4,000	晴
4/4(水)	2,000	雨
4/5(木)	3,000	雨
4/6(金)	300	雨
4/7(土)	1,000	雨
4/8(日)	1,000	雨
合計	59,300	

2-2　調査内容および方法

調査期間内に，サクラプロジェクト全体，および桜のライトアップに対するアンケート調査（以下,「アンケート調査」と呼ぶ）と，桜のライトアップコンテスト投票（以下,「コンテスト」と呼ぶ）を実施した．

2-2-1　アンケート調査

調査方法は，紙媒体のアンケート調査票を会場で配布してその場で回収する方法と，ＱＲコードを用いて,Ｗｅｂにより回収する方法の 2 種類とした. 内容は次の 7 項目とした．

①ご自身についてお聞きします（回答者の属性）
②サクラプロジェクトのどのイベントに参加されましたか？
③サクラプロジェクトで，良かったと思うイベントは何ですか？
④サクラプロジェクトのイベントを何で知りましたか？
⑤サクラプロジェクトに対する評価は 10 点満点中，何点ですか？
⑥今後も，このようなイベントに参加したいと思いますか？
⑦お気づきのことを自由にお書きください．

2-2-2　コンテスト投票

図 2 に示すように，打上川治水緑地の桜並木のライトアップ会場を 3 つのエリア（A・B・C）に分割し，A1 サイズの対象地図を作成した．図 3 のようにイーゼルを使用して，図 4 に示す会場の 3 カ所に（2017 年 5 台，2018 年 3 台）設置した．Aエリアは，はちかづきちゃん，ねや丸くん，桜影絵，Bエリアは，桜スイーツ，桜カフェ，姫桜，回廊，Cエリアは，夢の小道，桜影絵の催しものがある．この 3 つのエリア（A・B・C）から，良かったと思うエリアに●シールを貼って回答させた．なお，2018 年の期間後半の雨天日には，「桜のライトアップ コンテスト」投票は実施しなかった．

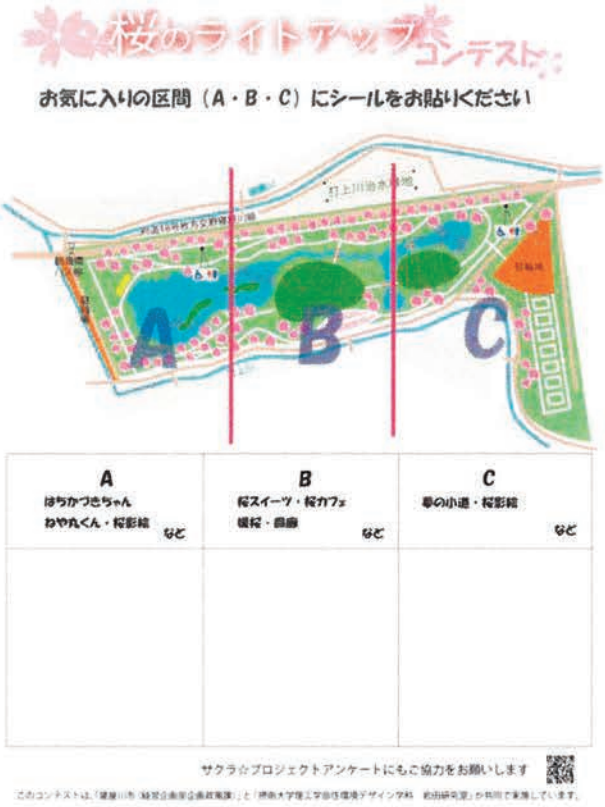


図 2　「桜のライトアップコンテスト」用に作成したボード（2018 年）

(a) 2017 年　　(b) 2018 年

図 3　「桜のライトアップコンテスト」のボード設置の様子

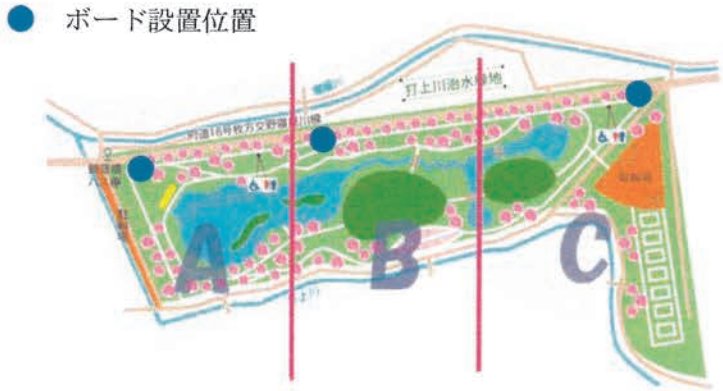


図 4　「桜のライトアップコンテスト」ボードの設置位置（3 か所）（2018 年）

3. 調査結果

3-1　アンケートおよびコンテストの回答数

アンケートの回答数は，2017 年は手渡し 364，Web64，計 428 であり，来訪者数 35,000 人のうち 1.2%の人に協力を得た．2018 年は手渡し 173，QR コードの提示箇所が少なかったために Web は 1 件のみ，計 174 であり，来訪者数 59,300 人のうち，0.29%の人に協力を得た．

コンテストの回答数は，2017 年は 1,645 票，(4.7%) であり，2018 年は 1,476 票，(2.5%) であった．

先述のとおり，2018 年の開花時期が 2017 年と大きく異なるとともに，2018 年は例年より開花，満開日がライトアップ期間よりも大幅に早まった．また，期間後半に雨天が続き，桜の花が散ってしまっていた．表 1 では，来訪者数および回答数が，桜の開花・満開の影響を大きく受けていることが明らかである．天気の影響までを予想して期間を定めることは難しく，企画推進の上での課題であるといえる．

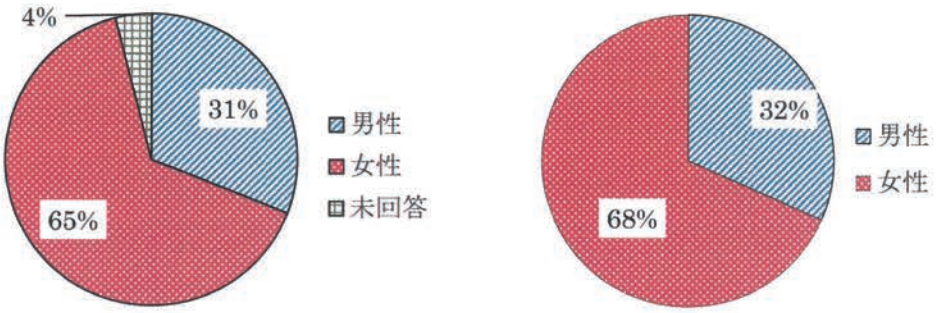
3-2　アンケート結果

3-2-1　回答者属性

アンケートの最後に「ご自身についてお聞きします（回答者の属性）」の項目を設け，性別，年齢，居住地，交通手段，同伴者などを質問した．

（1）性別

図 5 に，回答者の性別人数，割合を示す．2017 年は女性 279 人 (65%)，男性 135 人 (31%)，未回答 15 人（4%）であった．2018 年は，女性 118 人（68%），男性 56 人（32%）であった．いずれの年も，女性は男性の約 2 倍である．



(a) 2017 年（428 人）　　(b) 2018 年（174 人）

図 5　性別割合

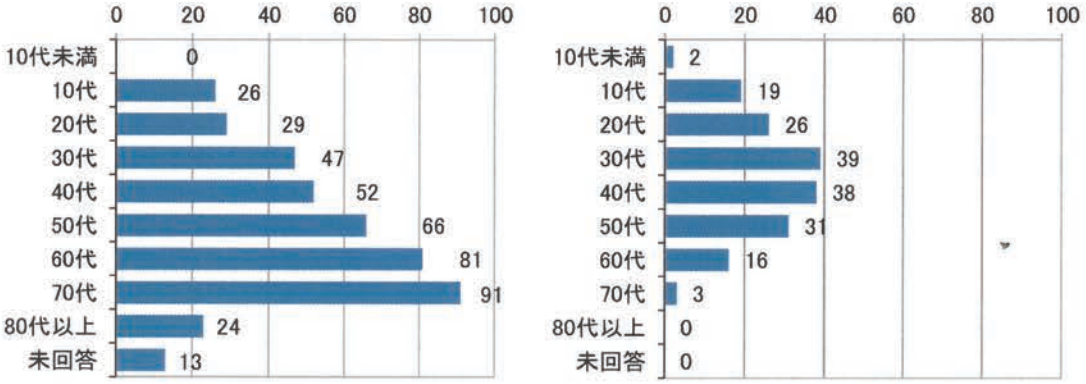
(2) 年齢

図 6 に，年代別回答者数を示す．

2017 年は，最多が 70 代の 91 人 (21%)，次に，60 代が 81 人 (19%)，50 代が 66 人 (15%) で，これらが上位 3 位を占めた．他の年代については，40 代が 52 人 (12%)，30 代が 47 人 (11%)，20 代が 29 人 (7%)，10 代が 26 人 (6%) であり，年齢が高いほど回答数が多いことがわかる．ただし，80 代は 23 人 (5%)，90 代以上は 1 人 (0.2%) であり，80 代以上の回答は少ない．未回答は 13 人(3%)である．50 代以上が回答者の 60%以上を占めたが，幅広い年代から回答を得ることができたといえる．

表 2 に示す，寝屋川市の年代別人口からみると，40 代が最も多く，次いで 10 代未満が多いが，60 代以上の人口が占める割合が多いことも分かり，回答者，来訪者の人数との関係が読み取れる．

2018 年は，最多が 30 代の 39 人 (22%) と，40 代の 38 人 (22%) であり，次に，50 代が 31 人 (18%)，20 代が 26 人 (15%)，10 代が 19 人 (11%)，60 代が 16 人 (9%)，70 代が 3 人 (2%)，10 代未満が 2 人 (1%) である．50 代以上の割合が，前年データと比較すると約 40%減少し 21%になったが，市外からの来訪者や，若い年代の来訪者の占める割合が増えたことが起因すると考えられる．



(a) 2017 年 (428 件)　　(b) 2018 年 (174 件)

図 6　年代別回答者数

表 2　寝屋川市年齢別人口 (2017 年)

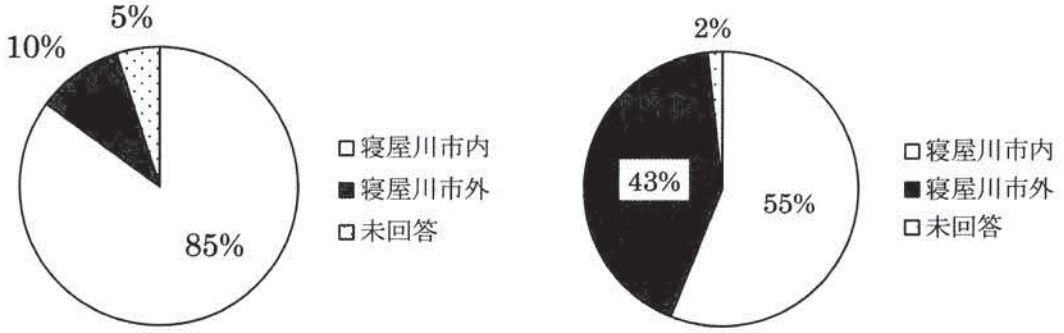
	人口
90 歳以上	2,377
80 代	13,561
70 代	31,152
60 代	33,534
50 代	27,709
40 代	38,984
30 代	26,405
20 代	22,470
10 代以下	40,565
年齢不詳	1
合計	236,758

(3) 居住地

図 7 に，回答者の居住地を示す．

2017 年は，寝屋川市内は 366 人であり，全体の 85%を占めた．市外からの参加は 42 人（10%），未回答は 20 人(5%)であった．市外からの参加は非常に少ないが，枚方 14 人，大阪 4 人，交野 2 人，他にも，八尾，四条畷，河内長野，東大阪，堺，守口，茨木，豊中，三田，宇治，東京，フィンランドなど，多方面に渡った．

2018 年は，寝屋川市内は 97 人であり，全体の 55%を占めた．市外からの参加は 74 人（43%），未回答は 3 人（2%）であった．寝屋川市外居住者の内，枚方 18 人，大阪 16 人，守口 7 人，門真 5 人，茨木 4 人，交野 3 人，神戸 3 人，堺 2 人，他，宇治，西宮，岸和田，豊中，和泉，芦屋，明石，四條畷，高槻など，主として大阪府下の多市にわたる．



(a) 2017 年（428 人）　　(b) 2018 年（174 人）

図 7　居住地割合

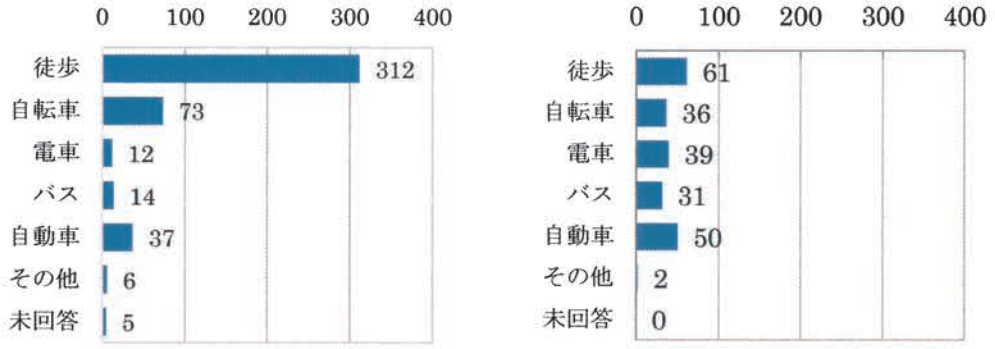
(4) 交通手段

図 8 に，主な交通手段（複数回答）を示す．

2017 年は，最多は徒歩 312 人であり，回答者の 73%を占めた．次いで，自転車が 73 人（17%），自動車が 37 人（9%），バスが 14 人（3%），電車が 12 人（3%）であった．

2018 年は，最多は徒歩 61 人であり，回答者の 28%を占めた．次いで，自動車が 50 人(23%)，電車が 39 人（18%），自転車が 36 人（16%），バスが 31 人（14%），その他が 2 人（1%）であった．

2017 年は徒歩での参加者が圧倒的に多く，バスや電車などの公共交通機関を利用しての参加が非常に少なかったが，2018 年には知名度が上がったことなどにより，徒歩圏内の近隣以外の人も多く来訪したことが推察できる．



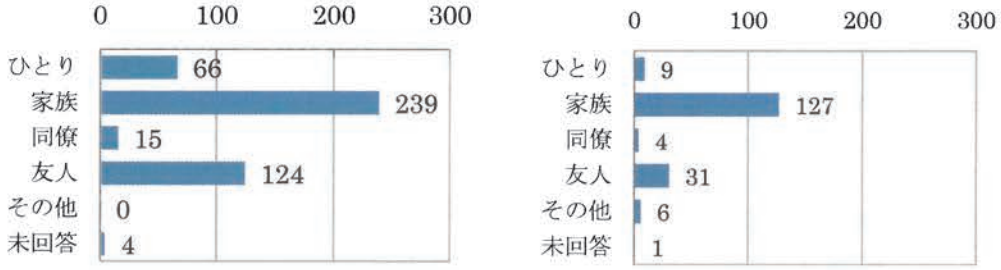
(a) 2017 年（428 人）　　(b) 2018 年（174 人）

図 8　交通手段（複数回答）

(5) 同伴者

図 9 に，一緒に来た同伴者（複数回答）を示す．

2017 年は，最多は家族 239 人であり 56%を占めた．次いで，友人が 124 人（29%），ひとりが 66 人（15%），同僚が 15 人（3%），その他が 0 人，未回答が 4 人(1%)であった．2018 年も，最多は家族 127 人であり，72%を占め，次いで，友人が 31 人（17%），ひとりが 9 人（5%），同僚が 4 人（2%），その他が 6 人（3%），未回答が 1 人(1%）であった．



(a) 2017 年（428 人）　(b) 2018 年（174 人）

図 9　同伴者（複数回答）

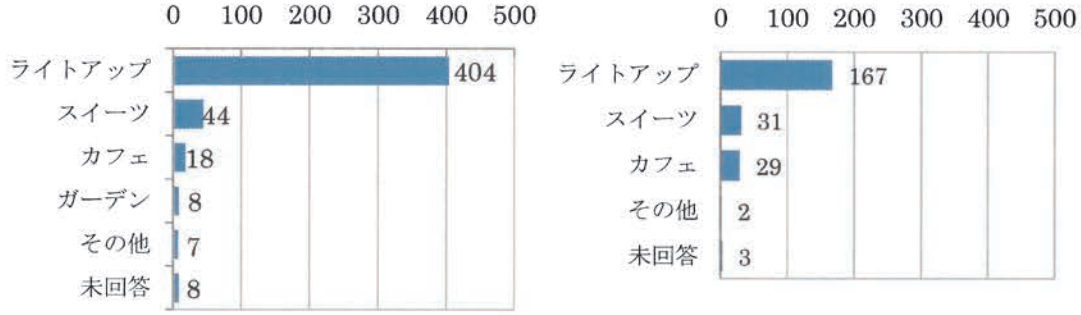
3-2-2　「サクラプロジェクトのどのイベントに参加されましたか？」について

サクラプロジェクトのどのイベントに参加したかについて，結果を図 10 に示す．

2017 年は，最多はライトアップ 404 人であり，全体の 94%を占めた．打上川治水緑地ではライトアップがメインということもあり，ライトアップへの参加者が圧倒的に多い．次に，スイーツが 44 人(10%)であるが，ライトアップの 1/9 であり，その差はかなり大きい．さらに，カフェは 18 人(4%)，ガーデンは 8 人（2%）と非常に少ない．スイーツ，カフェ，ガーデンは 3 月 25・26 日の 2 日間と期間が短いことが少数の原因であると考えられるが，その内スイーツは広報で記事が掲載されたので，カフェ，ガーデンよりも 2.2 倍，5.5 倍の参加者があったと考えられる．その他のイベントは 7 人(2%)，未回答は 8 人(2%)であった．

2018 年は，最多はライトアップ 167 人であり，全体の 72%を占める．打上川治水緑地ではライトアップがメインということもあり，ライトアップへの参加者が圧倒的に多い．

次にスイーツが 31 人（13%），カフェが 29 人（13%）であるが，ライトアップとの差が大きい．スイーツの数が少なかったことが，自由記述に見られ，そのことが一因とも考えられる．



(a) 2017 年　(b) 2018 年

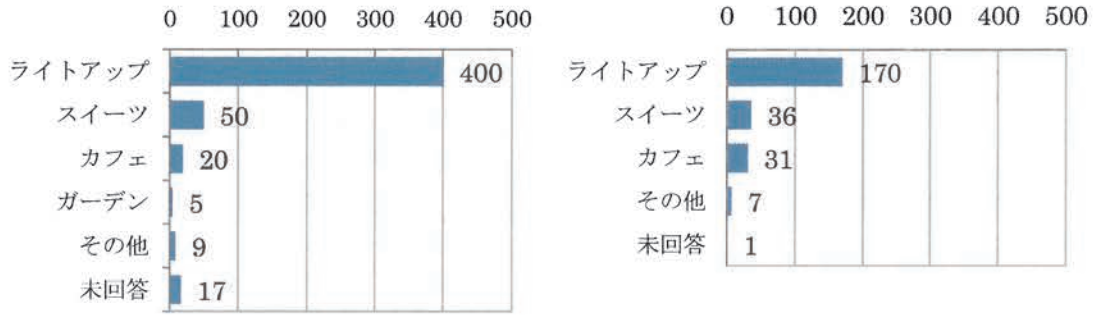
図 10　参加したイベント（複数回答）

3-2-3　「サクラプロジェクトで，良かったと思うイベントは何ですか？」について

サクラプロジェクトで良かったと思うイベントについて，図 11 に結果を示す．

2017 年は，最多はライトアップの 400 人で，プロジェクト全体の 93%を占めた．次いで，スイーツが 50 人(12%)，カフェが 20 人(5%)，ガーデンが 5 人(1%)，その他が 9 人(2%)，未回答が 17 人（4%）であった．

2018 年は，最多はライトアップが 170 人であり，プロジェクト全体の 69%を占めた．次いで，スイーツが 36 人（15%），カフェが 31 人（13%），その他が 7 人（2%），未回答が 1 人（0.4%）であった．いずれも，ライトアップに対する評価が非常に高いといえる．



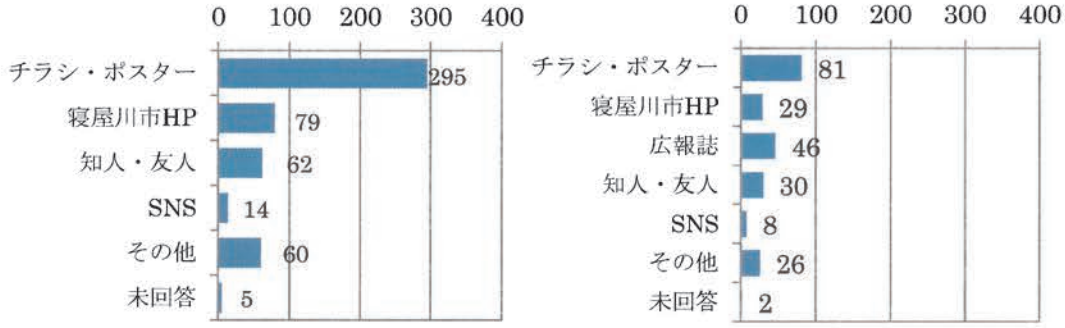
(a) 2017 年　　(b) 2018 年

図 11　良かったと思うイベント（複数回答）

3-2-4　「サクラプロジェクトのイベントを何で知りましたか？」について

サクラプロジェクトのイベントを何で知ったか（複数回答）について，図 12 に結果を示す．2017 年は，最も多いのは，チラシ・ポスターの 295 人で，69%を占めた．次いで，寝屋川市のＨＰが 79 人（18%），知人・友人が 62 人（14%）であり，ほぼ等しい．ＳＮＳは 14 人（3%），その他は 60 人（14%），未回答は 5 人(1%)であった．その他の回答には，広報，回覧板の記述が多くみられ，広報・回覧板の項目を次年度に追加することになった．

2018 年は，最も多いのは，チラシ・ポスターの 81 人で，36%を占めた．次いで，広報誌が 46 人（21%），知人・友人が 30 人（14%），寝屋川市のＨＰが 29 人（13%），ＳＮＳは 8 人（4%），その他は 26 人（12%），未回答は 2 人（1%）であった．チラシ・ポスターの効果について，別途検証する余地があることが明らかである．



(a) 2017 年　　(b) 2018 年

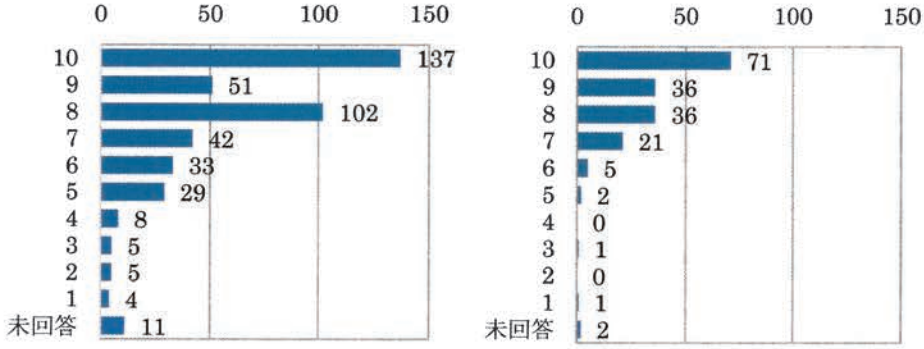
図 12　何でイベントを知ったか（複数回答）

3-2-5　「サクラプロジェクトに対する評価は 10 点満点中，何点ですか？」について

サクラプロジェクトの評価得点分布について，図 13 に結果を示す．

2017 年は，最も多いのは 10 点であり 137 人（32%），次いで 8 点が 102 人（24%），9 点が 51 人(12%)，7 点が 42 人(10%)，6 点が 33 人(8%)，5 点が 29 人(7%)，4 点が 8 人(2%)，3 点が 5 人(1%)，2 点が 5 人(1%)，1 点が 4 人(1%)であった．7 点以上の高評価が全体 75%を占めた．未回答は 11 人(3%)であった．

2018 年は，最も多いのは 10 点であり，71 人（41%），次いで，9 点と 8 点は 36 人（21%）と同数，7 点が 21 人（12%），6 点が 5 人（3%），5 点が 2 人（1%），3 点と 1 点が 1 人ずつ（1%）であった．8 点以上が 82%，7 点以上が 93%を占め，かなりの高評価を得たことが分かる．



(a) 2017 年（428 人）　　(b) 2018 年（175 人）

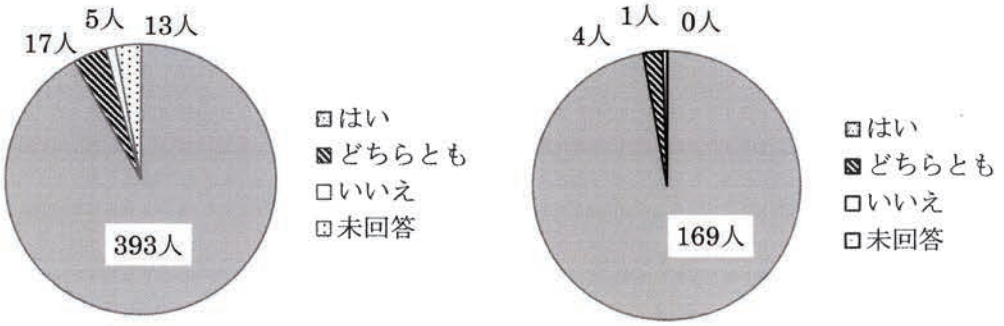
図 13　評価得点

3-2-6　「今後もこのようなプロジェクトに参加したいと思いますか？」について

今後もこのようなプロジェクトに参加したいと思うかについて，図 14 に結果を示す．

2017 年は，「はい」が最も多く，393 人 (92%) を占めた．「どちらでもない」が 17 人 (4%)，「いいえ」が 5 人 (1%) であった．2018 年についても，「はい」が最も多く，169 人 (97%) を占めた．「どちらでもない」が 4 人 (2%)，「いいえ」が 1 人 (1%) であった．

サクラプロジェクト，および桜のライトアップが大いに評価され，次回以降への期待が高いことが明らかである．



(a) 2017 年（428 人）　　(b) 2018 年（174 人）

図 14　今後の参加希望者

3-2-7　「お気づきのことを自由にお書きください」について

自由記入欄に書かれた内容からコメントの多かった，「サクラ」「ライトアップ」「お店」「期間」「企画・イベント」「案内・警備」などの項目に関連付けて分類して集計を行った．図 15 に結果を示す．

(1) サクラ

2017 年は，サクラに関するコメントは 42 件あり，「良い」は「美しい」8 件であるが，「悪い」は 32 件あり，全て「咲いていない」の指摘である．2017 年は例年よりも開花が遅く，ライトアップ期間と開花時期にズレが生じたことが原因であると考えられる．

2018 年は，サクラに関しては 10 件あり，「良い」は「美しい」など 8 件，「悪い」は「少し散っていた」「満開のときに来たい」という 2 件であった．2018 年は例年よりも開花が早く，ライトアップ初日に既に満開を迎えていたことが大きく影響していると考えられる．

(2) ライトアップ

2017 年は，ライトアップに関するコメントは 45 件あり，「良い」は 24 件，「悪い」は 13 件，「その他」は 8 件である．「ライトだけでも桜が咲いているようできれい」「ライトの色の変化が楽しい」「色が濃すぎて桜が目立たない」「片側だけでなく南側もしてほしい」などであった．

2018 年は，ライトアップに関しては 8 件あり，「良い」は「ライトアップが凝っていて思った以上に良かった」「ライトアップがきれい」など 7 件であった．「悪い」では「ライトアップ等に 2,000 万の予算はもったいない」というコメントもあった．

(3) お店

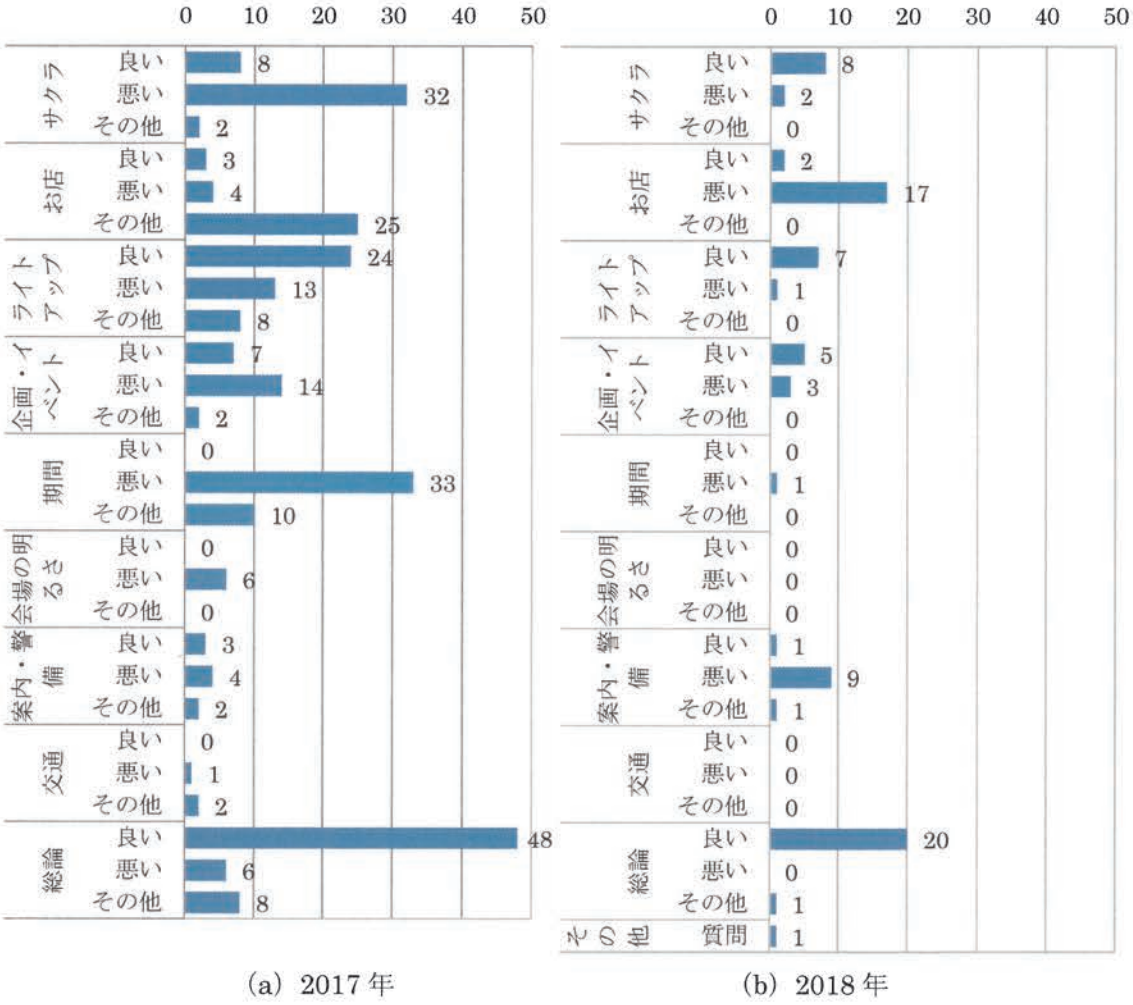
2017 年は，お店に関するコメントは 32 件で，「良い」3 件，「悪い」4 件，「その他」25 件であった．「カフェの期間を延ばしてほしい」「屋台などを出してほしい」などの要望が多かった．スイーツについては「良い」の意見があり期待されていた．

2018 年は，お店に関しては 19 件あり，「良い」は「カフェが充実していてよかった」の 2 件であった．「悪い」は「スイーツが売り切れで食べられなかった」「お店が少なかった」「閉まるのが早かった」などの 17 件であった．

(4) 期間

2017 年は，期間に関するコメントは 43 件あり，「良い」は 0 件，「悪い(短い)」は 33 件，「その他」は 10 件であった．「咲いてからイベントを」「期間が短かった」「延長してほしい」という指摘が極めて多かった．終盤にようやく桜が開花したことが原因と考えられ，桜のライトアップ期間の設定は今後の重要課題であることが明らかになった．

2018 年は，期間に関しては 1 件であり，「満開時に来たかった」であった．



(a) 2017 年　　(b) 2018 年

図 15　自由記述

(5) 企画・イベント

2017年は，企画・イベントに関するコメントは23件あり，「良い」は7件，「悪い」は14件，「その他」は2件であった．「帯が良かった」「帯の止め方が雑」「昼，平日にもイベントをしてほしい」「シャボン玉が少ない，終了していた」「しだれ桜もライトアップしてほしい」など，様々な指摘があった．

それを受けて2018年には，企画を少し変更したところ，コメントは8件あり，「良い」は「ランタンの貸し出しが良かった」が5件，「悪い」は「ランタンのトゲが刺さった」「シャボン玉があれば良かった」「公園の反対側に屋台があれば良かった」という3件であった．

(6) 案内・警備

2017年は，案内・警備に関するコメントは9件あり，「良い」は3件，「悪い」は4件，「その他」は2件であった．「丁寧な案内をしてくれた」「駐輪場を案内してもらえなかった」などの指摘があった．

2018年は，案内・警備に関しては11件あり，「良い」は「通行人等の管理が徹底していた」の1件で，「悪い」は「自動車の置き場がわかりにくい」「イベント・ライトアップの案内地図があればよかった」「犬は抱っこするようにしてほしい」「ごみの持ち帰りの周知がわかりにくい」「一方通行にしてほしい」「本部が真ん中にあれば良かった」など10件あった．

(7) 総論

2017年は，プロジェクト全体に対するコメントは62件あり，「良い」は48件，「悪い」は6件，「その他」は8件であった．「来年が楽しみ」「来年も開催してほしい」22件，ほか，「ベンチをつけてほしい」「音楽をかけてほしい」「トイレをきれいにしてほしい」「桜が咲いていないのに電気代がもったいない」などの指摘があった．

2018年には，前年度のアンケート調査結果を踏まえて改善したところ，「良い」は「とても良かった」「きれいだった」の20件であった．「悪い」の1件は，「トイレが詰まっていた」であった．

(8) その他

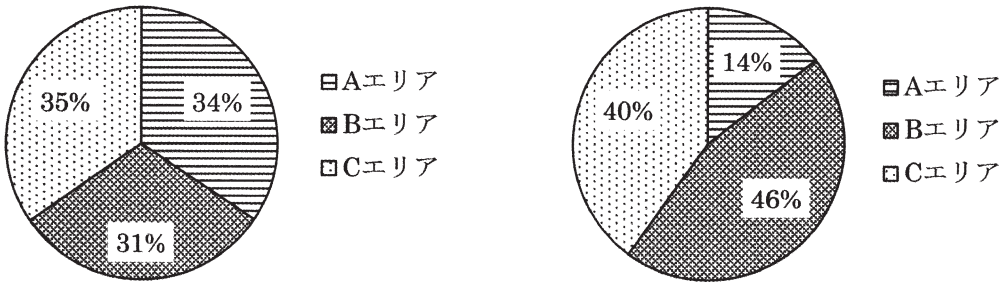
イベントに対するコメントとして，「ライトアップの桜の木の下でシートを広げても良いのか？」という質問が1件あった．

3-3 コンテスト結果

3-3-1 エリア別投票数

コンテスト（複数回答）の結果について，図16に，A・B・Cのエリア別投票数を示す．

2017年は投票数1,645票であった．エリア別では，Cエリアが最も多く570票であり，35%を占め，次いで，Aエリアが566票（34%），Bエリアが509票（31%）であった．3つのエリアの投票数は差がほとんどなく，拮抗した．



(a) 2017年（1,645票）　(b) 2018年（1,476票）

図16　エリア別投票数

2018年は投票数1,476票であった.イベントが少し変更になり,Bエリアが最も多く678票（46%），次いで，Cエリアが470票（40%），Aエリアが328票（14%）であった．Bエリアの票数が多かったのは，スイーツなどの店が開店していたことによると考えられる．

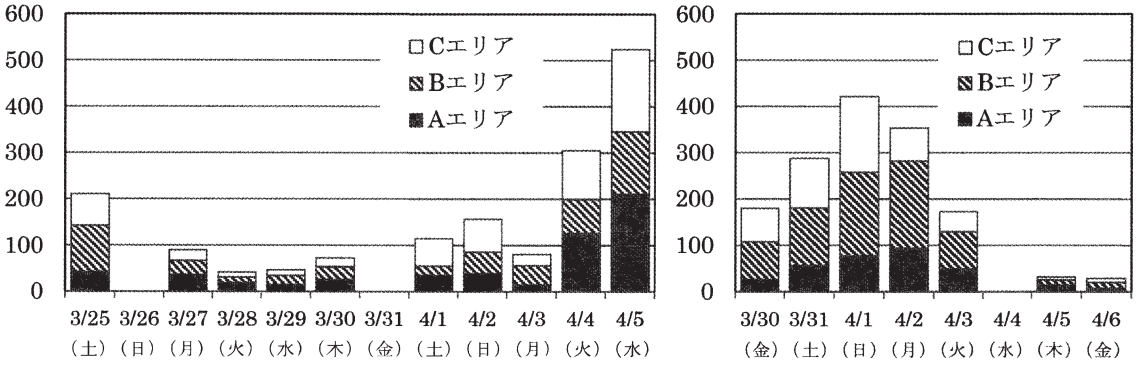
3-3-2　日別エリア別投票数

図17に，日別エリア別に投票数を示す．投票数が0の2017年3月26日，31日と，2018年4月4日および4月7日以後は，雨天のためコンテストを実施できなかったことを意味する．

2017年は，日別に投票数が最も多かったのは，4月5日の524票であり，期間全体の32%を占めた．次いで，4月4日が305票（19%），3月25日が211票（13%）であった．イベント開催初日の3月25日よりも4月4日，5日の方が多かったのは，来訪者数にほぼ比例し，かつ，2017年の桜の開花が3月30日（木），大阪の満開宣言が4月6日であったことから，4月4日，5日に参加者が急増したことによると考えられる．

日別エリア別の投票数では，最終日の4月5日，その前日の4月4日は，4月5日が211票，4月4日が127票である．両日ともに，Cエリアが最も多く，次いでAエリアが多かった．それに対して，開催初日の3月25日は，Bエリアが最も多くカフェや，開会式に因んだイベントがBエリアで催されたことから100票であった．4月1日，2日の週末（土・日）には，Aエリアが最も多かった．

2018年は，日別エリア別では，最も投票が多かったのは，4月1日の421票であり，期間全体の29%を占めた．次いで，4月2日が353票（24%），3月31日が288票（20%）であった．投票数は来訪者数にほぼ比例しているといえる．それに対して，終盤の4月5日，6日（木・金）は平日であることと，桜はほぼ散っていたことから来訪者数が少なく投票数は両日ともに3%に満たない．先にも述べたように，日別エリア別投票数は桜の開花の影響が大きいとともに，スイーツなどの店の人気によるものと考えられる．



(a) 2017年（1,645票）　　(b) 2018年（1,476票）

図17　日別エリア別投票数

4. まとめ

2017年および2018年の「寝屋川サクラ☆プロジェクト」のアンケート調査結果，および「桜のライトアップコンテスト」の投票結果について，結果を次にまとめる．

1) 来訪者は2017年が35,000人，2018年が59,300人であり，2018年が前年を大きく上回った．しかし，アンケート回答者は2017年が428人（1.2%）であり，2018年が174人（0.3%）であった．いずれの年も女性の回答が男性よりも大きく上回った．
2) 2017年は，50代以上が回答者の60%以上を占め，2018年は30代と40代がほぼ同数であり，合計すると44%であり，30代以上は全体の73%を占めた．50代以上の割合が前年データと比較すると約40%減少し21%になったが，市外からの来訪者や，若い年代の

来訪者の占める割合が増えたことが起因すると考えられる．回答者の年代は，いずれの年も幅広い年代から回答を得たといえる．

3）来訪者の居住地は，2017 年は寝屋川市が最も多く，全体の 85%を占め，市外は 10%であった．2018 年は，寝屋川市内が 56%であったが，市外が増え 43%になった．

4）交通手段は，いずれの年も徒歩が最も多く 2017 年が 73%，2018 年が 28%であった．2017 年はバスや電車などの交通機関の利用は非常に少なかったが，2018 年は自動車 23%，電車 18%，自転車 16%，バス 14%であった．

5）同伴者は，いずれの年も家族が最も多く，2017 年が 56%，2018 年が 72%であった．

6）参加したイベントは，2017 年はライトアップが最も多く 94%を占めた．スイーツが 10%，カフェが 4%，ガーデン，その他，未回答が 2%であった．2018 年はライトアップが最も多く 72%を占めた．スイーツが 13%，カフェが 12%，その他，未回答が 1%であった．

7）良かったと思うイベントは，ライトアップが最も多く 2017 年は 93%，2018 年は 69%を占めた．いずれも，ライトアップに対する評価は非常に高かった．

8）イベントを知った媒体は，チラシ・ポスターが最も多く 2017 年は 32%，2018 年は 37%であった．次に，広報誌，知人・友人，寝屋川市のＨＰなどであった．

9）プロジェクトに対する評価は，10 点満点が最も多く 2017 年は 32%，2018 年は 41%を占めた．7 点以上の高評価が 2017 年は 75%，2018 年は 93%を占めた．

10）今後も参加したいかについては，「はい」の回答が最も多く 2017 年は 92%，2018 年は 97%を占めた．来訪者の満足度は非常に高く，継続が期待されていることが明らかになった．

11）自由記述では，「良い」のコメントが最も多いが，2017 年は桜の開花の時期が遅くライトアップの期間前半は桜が咲いていない状態だったので，「悪い」意見としては，「桜が咲いていない」，「開催期間が短い」というコメントが多かった．それに対して，2018 年はライトアップ期間の前半に桜が満開となり，「悪い」意見としては「店が少ない」，「スイーツが売りきれていた」というコメントが多かった．

12）桜のライトアップコンテストの投票数は，2017 年には桜がようやく満開になった 4 月 5 日(水)が最も多く，3 つのエリアとも合計票数に大きな差はなかったのに対して，2018 年は 4 月 1 日（日），2 日（月）が多く，エリア別ではスイーツなどの店が開店していたエリアが最も多かった．

5．おわりに

「寝屋川サクラ☆プロジェクト」は，寝屋川を「桜のまち」として，そのイメージを広く報せることがひとつの目標である．特に，開催2年目の2018年の桜のライトアップでは，来訪者数が当初の予想 40,000 人（1 日平均 4,000 人）を大きく上回る 59,300 人（1 日平均 5,930 人）であり，プロジェクト全体の目標達成に大いに貢献したといえる．

2017 年，2018 年の 2 年に渡って実施した「寝屋川サクラ☆プロジェクト」アンケート調査，および「桜のライトアップコンテスト」の調査の結果，来訪者の年齢，利用した交通機関など，様々な意見や実情を知ることができ，今後の具体的な対策方法や改善点なども明らかになった．「桜のライトアップコンテスト」では，特にアンケート調査の回答に積極的に関わることができない子どもや，同伴者などの意見も反映されていることが特徴であり，アンケート調査の約 10 倍の回答数の 1,476 票の意見を真摯にとらえる必要があるといえる．調査を実施したことで参加者から多くの意見を聞くことができたが，2017 年の来訪者数の回答率が 1.22%であったのに対して，2018 年は 0.25%に減少したことについては残念なことであり反省材料の一つである．

以上の結果を，次のプロジェクトの実施に向けて積極的に活用することが期待されるとともに，高齢者を含め，一般市民を対象に広く意見を求める機会を設けたり，学生や生徒に対してもイベントに関するアイデアを募って，さらなる発展につなげることも今後の対策としての一案であるとの考察に及ぶ．

「寝屋川サクラ☆プロジェクト」の実施を担当する部署，および摂南大学理工学部住環境デザイン学科岩田研究室は，本調査結果を，寝屋川市のまちづくりの更なる活性化に向けて，新たな企画の考案に活かしたいと考えている．

謝辞

本調査は，寝屋川市経営企画部企画政策課と摂南大学理工学部住環境デザイン学科岩田研究室との共同で実施しました．また，アンケート調査およびコンテストには，多くの来訪者の方に回答をいただきました．関係諸氏に対しまして記して感謝申し上げます．

なお，本調査は寝屋川市の倫理審査を得て実施した．

参考文献

(1) 野村労，「高浜町路地イベントを舞台としたコミュニティー形成とまちづくり住民事業の試み」，日本不動産学会誌，28-3(2014)，p.121，

(2) 島瑞穂，日野泰雄，「広域型地域協同まちづくりにおけるイベント運営の課題と改善策の検討」，日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集，13(2015)，pp.77-80

(3) 久隆浩，「地区まちづくりにおける対話の場の形成に関する研究」，日本建築学会近畿支部研究報告集(2002)

(4) 田中晃代，「地区まちづくりの進捗状況と支援課題に関する研究」，日本建築学会大会学術講演梗概集(2001)

(5) 薬袋奈美子，高見沢邦郎，早田宰，「住民主体のまちづくりへの自治体及び外郭団体にする支援の現状と課題」，都市計画論文集，30(1995)，pp.331-336

(6) 家本智，加我宏之，下村泰彦，増田昇，「中心市街地活性化型まちづくりを支えるイベント活動の成立要件に関する研究 - 堺東駅前地区「そや堺ええ街つくり隊」を事例として - 」，日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集，7(2009)，pp.25-28，